

賞状を受け取る中谷教諭＝10日、福井市の
県立図書館



—— 白川静漢字教育賞 ——

中谷教諭(福井)最優秀

新たな指導法や独自の教材で優れた漢字教育を実践している県内外の教員らを対象にした「第5回白川静漢字教育賞」で、福井市豊小の中谷幸子教諭(54)が最優秀賞に選ばれ、10日に同市の県立図書館で表彰式が行われた。

漢字研究の第一人者で福井市出身の文化勲章受章者、故白川静さんにちなみ、漢字や国語、書道教育の振興を図ろうと、県と県教委が13年度に創設した。今回は17都道府県とキルギスから計69件の応募があった。中谷教諭は、小学校低学年の児童が自作した漢字カルタを活用し、古代文字や漢字の成り立ち、文や熟語のつくり方などの学習につなげている。漢字カルタを繰り返し使い、学習を進化させている点が高く評価された。

西川一誠知事から賞状を受け取った中谷教諭は「どこでも、誰でも、いつでもできる実践にスポットライトを当てていただいた。漢字教育の裾野を広げていきたい」と喜びを語った。

このほか、愛知県小牧市立小牧南小の丹羽典子教諭が優秀賞、早稲田大教育・総合科学芸術院の財前謙講師が特別賞に選ばれた。

表彰式では、受賞した3人がそれぞれの取り組みを発表したほか、全国大学書写書道教育学会理事長の押木秀樹・上越教育大教授が記念講演した。

(西脇和宏)